

認知症高齢者グループホーム外部評価結果

グループホーム あい

番号	項 目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
1	理念の具体化 サービス理念や運営方針は、家庭的な環境の中で、利用者の能力や尊厳を尊重したケアを行うなど、グループホームの特徴を生かしたものになっている。				
2	理念の共有と実現 すべての職員が、ホームの理念にもとづき、常にその実現に取り組んでいる。				
3	グループホームでの生活空間づくりの工夫 周囲に広々とした田園が広がる住宅地の一角にあり、建物は民家を改修した昔懐かしい独特の趣が漂っています。内部は住み慣れた家と同じ雰囲気大切に、居心地良く暮らす工夫として、さんさんと陽光が入る広縁にイスやテーブル・雑誌を置き、日向ぼっこや昼食の場として、1人でのんびり過ごせる工夫がみられました。また、ホットカーペットが敷かれたリビングには、ごろりと横になって眠り込んでしまう入居者がいたり、入居者と職員が座り込んでおしゃべりを楽しんだり、一般家庭の居間の雰囲気が漂う落ち着いた場になっています。				
4	気軽に入れる雰囲気づくり 入居者や家族が入りやすい、近隣の住民も訪ねやすいなど、玄関まわりや建物の周囲が違和感や威圧感を感じさせないつくりになっている。				
5	家庭的な雰囲気づくり 共用の生活空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレなど）をはじめ、調度品や設備、物品や装飾が家庭的な雰囲気になっている。				
6	くつろげる場所の確保 居室以外に、自由に過ごせるような居場所がある。				
7	居室の環境づくり 居室は、入居者一人ひとりの生活にあわせ、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれるなど、安心して過ごせる場所となっている。				
8	入居者の身体機能の低下を補うことに配慮した環境及び生活空間づくり				
9	痴呆症状に配慮した環境づくり 場所の間違いなどの混乱を防ぐための工夫がしてある。				
10	落ち着いた暮らしができる快適な環境づくり 入居者が落ち着いて快適に暮らせるように、音の大きさ、光の強さ、におい、冷暖房などに配慮してある。				
11	入居者に対するケアを行ううえで工夫されていること 生活歴や家庭背景、これまでのライフスタイルなどを家族から聴取し、現在の心身の状態を十分に把握したうえで適切な個別ケアが実施されています。入居者の言動を否定せず、わがままと言えるような配慮がみられます。個々の入居者に合わせて声質やトーンを変えたり、言葉づかいも入居者がなじんだ方言で話したりと、一人ひとりに適したコミュニケーションが行われています。病院に転院し再入居した入居者や初めての入居者には、環境の変化による混乱・不安の軽減のために、管理者が1週間泊まり込んで24時間個別に対応し、手厚いケアを実施しています。管理者のこのような努力によって他の入居者に影響を及ぼすことなく、日々の穏やかな生活を送ることができています。病院に入院した入居者が精神安定剤の投与や拘束を受けることがないように、休日を利用し病院に泊まり込んで付き添う職員もあり、まさに家族同様の愛情に満ちた支援が展開されています。				
12	個別・具体的な介護計画の作成 アセスメント（評価）に基づいて、入居者一人ひとりの状況に応じた具体的な介護計画を作成するとともに、その計画の内容について入居者や家族に説明している。				
13	介護計画への理解と実践 すべての職員が入居者一人ひとりの介護計画を理解し、その介護計画に沿ったケアを行っている。				
14	職員間での情報の共有 職員間での申し送りや情報伝達を確実にしている。また、重要事項について、すべての職員に伝わる仕組みがある。				
15	入居者一人ひとりの尊重 常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。				
16	職員の穏やかな態度 職員の態度がゆったりしており、入居者への言葉かけなど、やさしい雰囲気で接している。				

認知症高齢者グループホーム外部評価結果

グループホーム あい

番号	項目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
17	入居者のペースの尊重 ホーム側の決まりや都合で業務を進めていくのではなく、入居者が自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。				
18	入居者の意志の尊重 入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にしている。				
19	自立への配慮 入居者の「できること、できそうなこと」について、できるだけ手や口を出さずに、見守ったり一緒に行動するようにしている。				
20	身体拘束のないケアの実践 すべての職員が、身体拘束についての正しい理解のもと、身体拘束をしないケアを実践している。				
21	入居者と共同した食事の支度と後かたづけ 献立づくり、買い物、調理や後かたづけなどについて入居者と共同して行う工夫をしている。				
22	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や、便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理をしているかどうか。また、盛り付けの工夫等を行っている。				
23	家庭的雰囲気の食事支援 職員が入居者と同じ食事を楽しみながら、食べこぼし等に対する支援・介助をさりげなく行っている。				
24	一人ひとりに応じた排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立した排泄へ向けた支援を行っている。				
25	排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導や介助、失禁などへの対応は、入居者の不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。				
26	希望に合わせた入浴の支援 入居者が自分の希望に合わせて入浴できるように支援している。				
27	希望に合わせた理美容院への利用支援 入居者の希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。				
28	プライドを大切にした整容への支援 入居者のプライドを大切にしながら、容姿や着衣の乱れ、汚れ等に対してさりげなくカバーしている。				
29	細やかな安眠のための支援 夜眠れない入居者には、1日の生活リズムを通じた対策を取るなど、入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、安眠できるよう支援している。				
30	主体的な金銭管理に向けた支援 入居者本人が日常の金銭管理を行えるよう、入居者一人ひとりの状況に応じた支援をしている。				
31	ホーム内での役割・楽しみごとの創出 入居者がホーム内での役割や楽しみごとを見い出せるよう、家事や小動物の世話など、一人ひとりに応じた出番づくりをしている。				
32	口腔内の清潔保持 入居者の状況に応じて、口の中の汚れや臭いが生じないよう、歯磨きや入れ歯の手入れ、うがい等への支援、出血や炎症のチェックなど、口腔の清潔を日常的に支援している。				
33	身体状態の変化や異常の早期発見、対応 入居者の身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように努め、その状況を記録に残している。				
34	服薬の支援 入居者の体調と使用する薬の目的や副作用、用法や用量を理解しており、入居者が医師の指示に従って服薬できるように支援している。				
35	緊急時の対処体制の整備 入居者のけが、骨折、発作、のど詰まり等の緊急時に職員が応急手当を行うことができるようにしており、協力医療機関や消防、警察等とあらかじめ必要な事項を取り決め、連携体制を整えている。				

評価者：ワークショップ「いふ」

認知症高齢者グループホーム外部評価結果

グループホーム あい

番号	項目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
36	地域における入居者の生活支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、買い物や散歩、集会への参加など、積極的に地域の中で楽しめるような機会をつくっている。				
37	入居者家族のホーム訪問に関する配慮 入居者の家族が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、ホームに来やすい雰囲気をつくっている。				
38	入居者家族との交流支援 入居者と家族とが交流できるように、食事づくり、散歩、外出、行事など、ホームでの活動に参加する機会をつくっている。				
39	事業所としての組織的取組状況 法人代表者及び管理者は、現場の状況をよく理解して、職員と一体となって協力してケアサービスの向上に取り組んでいる。				
40	入居者の状態に応じた職員の確保 GHケアに適した資質を有する職員を採用するとともに、夜間を含め無理のない職員の勤務ローテーションを組むなど、入居者の状態や生活の流れを支援するための人員配置を確保している。				
41	事故防止の対策 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合には、すべての職員が的確に対応できる体制を整えているとともに、再発防止対策を検討し、サービスの改善を図っている。				
42	入居者家族からの意見や要望を引き出す工夫 入居者の家族が、気がかりなことや意見、要望などを気軽に伝えたり相談したりできるように、家族の面会時の声かけ、定期的な連絡等を積極的に行っている。				
43	地域の人々との交流 入居者と地域の人々との交流のための取組みを行っている。				
44	地域社会への貢献 痴呆の理解や関わり方についての相談への対応や教室の開催、研修生やボランティア等の受け入れなど、グループホーム運営上培った知識や経験、技術などを地域社会に提供している。				
45	ホーム全体の雰囲気 建物の外観は周囲の住宅の雰囲気に溶け込んでおり、内部も一般家庭そのまま、のどかで穏やかな家庭という印象を受けます。入居者と職員はゆったりと生活しており、リビングや広縁で交わされる会話の様子からは、現代が無くしつつある家族の団らんを感じられました。職員は入居者を第一に考え、入居者は職員の思いをしっかりと受け止め、安心して任せているように思われました。家族的な雰囲気の中で、入居者を尊重したきめ細やかなケアが行われており、認知症介護の原点を見る雰囲気でした。				
46	総合的な評価 管理者・職員共に高い意識を持ち、並々ならぬ情熱と信念を持って認知症ケアに取り組んでいます。管理者は先頭に立って困難事例にあたり、必要ならば何日もホームに泊まり込み、24時間個別の対応を行うなど親身のケアを行っています。職員もこの熱意あふれる姿勢に触発され、愛情を持ってケアを実践しています。入居者の表出した言動に振り回されず、言動の奥にある思いを汲み取りケアすることで、入居者は安心して穏やかに過ごすことができています。また、入居者と家族との関係構築のため、面会の呼びかけや家族も共に楽しむことが出来るような行事の企画、家族と一緒に泊旅行などアイデアを出し合い努力しています。				
47	優れている点 生活援助の方法は言うまでもなく、呼称、言葉づかい、声のトーンに至るまで入居者一人ひとりに合わせて使い分けるなど、徹底した個別ケアが実践できています。また、入居者の心身の状態を正確に把握したうえで、個々の残存能力や潜在する生活力を発見し、伸していく援助が行なわれています。不安、不穏、興奮などが起こってからではなく、起こる前に気づき適切な援助を行う予防的介護が行われており、入居者の精神的安定につながっています。職員は家族のような暖かい心と、専門家としての冷静で鋭い頭脳を持ってケアを行い、入居者及び家族の信頼を得ています。				
48	努力が望まれる点 入居者のケアに情熱が注がれており、書類作成等事務的な分野が多少稀薄になっている感があります。職員間で業務分担を図り、計画を立てて事務処理にあたるなどの工夫をされては如何でしょうか。また、職員の休憩時間については、短時間でも入居者と離れて一息つく場を考慮されると、リフレッシュ出来ると思われれます。				